

中禅寺湖漁業協同組合

創立55周年記念感謝祭実施要領

中禅寺湖漁業協同組合のあゆみ

- 昭和38年4月25日 第一回設立総会開催
初代組合長 神山 公一郎
組合員総数93名から本格的運営を開始した。
- 昭和53年 最盛期には、組合員は162名を数えた。
解禁初日には中禅寺湖が釣り船で満杯となる賑わいを見せ、岸は釣り人で大混雑した時代があった。
- 平成の時代に移り、中禅寺湖における動力船規制取り扱いの方針で釣り船の大幅削減、これを機に釣り客数に陰りが見えてきた。
- 平成23年3月11日 東日本大震災による東京電力福島第一原発の放射性物質拡散という大惨事に見舞われ、その翌年は国による食品中の放射性物質の基準値の大幅な引き下げにより、平成24年の解禁が危ぶまれたが、行政関係機関及び中禅寺湖の熱狂的な釣りファンの後押しに支えられ、キャッチ&リリース試行からスタートした。
- 平成25年～28年にかけて、大震災の影響で釣り客の減少が予想される中で、いくつかの見直しを行った。小学生の無料化を18歳以下まで引き上げ、又障害者の方には等級に関わらず障害者手帳をお持ちの方は全て半額とし、回数券の販売についても12回券から半分の6回券とし、利用者の利便性を高めた。岸釣り券、船釣り券と異なる遊漁料金を統一したことで、遊漁者増加に繋がった。
- 平成28年10月20日 栃木県から念願のヒメマス解禁延期要請が解除され、持ち出しが可能となる。

- 平成 29 年度は震災以前の遊漁者を上回ることができた。遊漁者層においても家族連れや女性、30 代以下の若年層の遊漁者などが飛躍的に増加し、かつては見られなかった新たな賑わいを見せている。
震災後の絶望的かと思われた状況からここまで立ち直ることができたのは、中禅寺湖に足を運び続けてくれる多くのリピーターの皆様と、グローブライド株式会社の御支援・御協力があったからこそである。
- 徐々に震災以前の中禅寺湖へと回復しつつあるが、依然として道半ばの状況である。完全復活へ向け、各関係機関と手を携えながら努力していくと共に、鱒釣りの聖地の名に恥じることない中禅寺湖の歴史と伝統を、後世に次ぐために尽力して参ります。